

令和6年度 新座市立東野小学校 学校経営方針

校長 齋藤 伸一

1 学校教育目標

おおらかで たくましく 進んで学ぶ子 地域とともに生きる子

- おおらかで（徳・規律ある態度）
- たくましく（体・体力）
- 進んで学ぶ子（知・学力）
- 地域とともに生きる子（地域）

2 目指す学校像

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」
～ 一人一人の笑顔と感動、歌声あふれ、深く学び合い、生きる力(夢)をはぐくむ学校 ～

- (1) 児童が“学びがいがある”と実感できる
- (2) 保護者にとって“通わせがいがある”と実感できる
- (3) 地域にとって“応援・協働しがいがある”と実感できる
- (4) 教職員にとって“働きがいがある”と実感できる

3 目指す児童像

自立（ひとりで） 共生（なかよく） 健康（たくましく）

- (1) 自立（ひとりで）
 - ・自ら進んで学ぶ子
 - ・自ら考え判断し、正しい行動ができる子
 - ・自ら考え、課題が解決できる子
- (2) 共生（なかよく）
 - ・誰にでも思いやりの心をもって接する子
 - ・みんなで学び合い、みんなのために働く子
 - ・いじめは絶対しない子
- (3) 健康（たくましく）
 - ・進んで運動し、体力をつける子
 - ・最後まで粘り強く取り組む子
 - ・早寝・早起き・朝ご飯を守って、健康な子

4 目指す教師像

- (1) 研究と修養に励み、児童のよさや可能性を伸ばす教師
- (2) 児童に愛情を注ぐ、人間性豊かな教師
- (3) 互いに切磋琢磨し、組織の一員として協働する教師
- (4) 児童や保護者、地域の期待に応える教師

5 目指す家庭像（家庭と共に）

- (1) 家族仲良く、明るく、楽しく過ごせる家庭
- (2) 子供をよく理解し、励ましてくれる家庭
- (3) 家族の一員としての、責任と自覚をもたせてくれる家庭
- (4) 学校の方針を理解し、絶えず連絡・協調してくれる家庭
- (5) 望ましい食生活を心掛け、健康づくりをしてくれる家庭

6 学校経営基本方針

- (1) 確かな学力の育成を図る学習指導の充実
- (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育活動の充実
- (3) 教職員の資質能力の向上と教職員組織の活性化
- (4) 教育環境の整備と充実
- (5) 学校・家庭・地域と一体となった教育の推進（地域を愛する子供の育成）

7 重点目標（HIGASHINO 10）

- (1) 学年・学級経営や生徒指導の充実を図り、信頼関係や好ましい人間関係をはぐくむ。
 - ①児童一人一人が学校生活の主人公として、よりよい生活づくりに参画しようとする自主的、実践的な態度の育成を図る。
 - ②児童一人一人が認められ、よさが発揮できるよう、すべての教育活動において、担任と児童及び児童相互の人間関係を深め、学級の好ましい雰囲気醸成を図る。
 - ③全教職員が一貫した姿勢で、児童の自主性や自発性を大切にしつつ、規律正しい生活態度、善悪を正しく判断して行動する力、望ましい人間関係などの育成に努める。
- (2) 児童理解を深め、一人一人のよさや可能性の伸長を図る。
 - ①一人一人の児童の個性や持ち味を多面的・共感的に理解し、望ましい成長と自己実現のための支援を行う。
 - ②児童一人一人が目標に向かって努力し、集団の中で認め合い、それぞれの能力が十分に発揮できるような教育活動を推進する。
 - ③校内相談体制の充実を図り、児童一人一人の情報を的確に把握するとともに、抱える悩みや不安を解消し、学校生活への充実感や満足感を高める。
- (3) 児童が主体的に学ぶ授業作りを進め、学習内容の確実な定着を図る。
 - ①児童に課題意識と見通しをもたせ、主体的な活動を通して課題解決を図る満足感の高い授業を展開する。
 - ②すべての授業において豊かな言語活動を位置付け、個人や小グループ、集団での学び合いを通して、学習を深める。
 - ③個に応じた支援と、評価や振り返り活動の充実を図り、確かな学力の定着を図るとともに、学習意欲をはぐくむ。
 - ④体験的な学習、TTや少人数指導、ICTを活用した授業の充実。AI教材 Qubena（キュービナ）を活用した基礎学力の向上。
- (4) 道徳教育の充実を図り、豊かな人間性や規範意識をはぐくむ。
 - ①道徳の時間を要として、基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルの育成などにかかわる道徳的実践の指導の充実を図る。
 - ②全教職員の共通理解のもとに、各教科や特別活動、生徒指導や人権教育等との関連も図り、児童の豊かな心をはぐくむ実践や体験活動を推進する。
 - ③道徳教育を一層効果的に推進するために、道徳の時間の授業を積極的に公開し、家庭や地域と相互に連携を深めた取組の充実を図る。
- (5) 体力の向上と健康教育の推進を図る。
 - ①生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成するために、一人一人の能力・適性等に応じた課題をもたせ、自ら進んで運動に取り組む学習を通して体力の向上を図る。
 - ②計画的な保健学習や保健指導を通して、自らの健康を適切に管理し、改善を図るための意思決定ができる資質や能力をはぐくむ。また、食育指導の充実を図る。
 - ③保健教育の充実のために、保護者や学校保健関係者、関係機関との連携を図り、保健教育や保健管理が適切に実施できるようにする。

(6) 一人一人の教育的ニーズに適切に対応する特別支援教育の充実を図る。

- ①児童一人一人の状況や特性等に応じて、具体的な指導目標や指導内容・方法を明確にした個別の指導計画や教育課程を編成し、きめ細かな指導の充実を図る。
- ②通常の学級に在籍する児童について、必要に応じて個別の指導計画を作成し、一人一人に応じた適切な支援の充実を図る。
- ③校内就学支援委員会を中心として校内支援体制を整え、保護者や医療・福祉等の関係機関と連携して支援の充実を図る。

(7) 教職員の授業力や資質向上のための研修の充実を図る。

- ①教職員が一丸となって、学校課題の解決を図るための重点研修に取り組み、授業研究を通して、組織的な授業力の向上を図る。
- ②日常の職務や研修機会を生かして、共通の目標に向かってチームとして協働し、切磋琢磨し合う関係づくりを通して、指導力や人間性などの資質や能力を磨く。
- ③県や市等が実施する公的な研修や、県内等の学校の研究発表会に積極的に参加するとともに、教職員自ら自主的な研修に取り組み、その成果を児童に還元する。
- ④教職員の時間外在校等時間の縮減（月45時間、年360時間以内の実現）と学校における働き方改革を推進する。負担軽減のための条件整理、教職員の専門性を踏まえた総業務量の削減を行う。

(8) 安全教育と安全管理の徹底を図り、安全安心な教育環境を整える。

- ①自他の生命を尊重し、生涯にわたって安全な生活を営む基礎を培うよう、全教育活動を通して組織的、継続的に安全教育を推進する。
- ②児童が安全についての知識や技能を身に付けるための安全学習の充実を図るとともに、日常生活に潜む様々な危険を回避することができるような安全指導を推進する。
- ③日常における安全点検を徹底するとともに、家庭や地域との連携を図り、防犯教育及び交通安全や災害などの防災教育の充実に努める。

(9) 情報化・国際化等、社会の変化に対応した教育の充実を図る。

- ①ICTに慣れ親しみ、基本的な操作や情報モラルを身に付けるとともに、児童が必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・表現し、発信する能力を育成する。
- ②国際社会の一員として、自国及び諸外国の伝統や文化等を理解して、相手の立場を尊重して意思疎通を図ることのできる資質や能力を育成する。
- ③持続可能な社会を作るための環境教育、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心や態度を育てる福祉教育など、社会の変化に対応するための教育の充実を図る。

(10) 家庭や地域の教育力を効果的に生かし、教育活動の質の向上を図る。

- ①地域の人材や教育資源を教育活動に積極的に生かし、地域から学び、地域を愛する児童を育成する。
- ②PTAや学校応援団、地域の自治会や関係諸機関と連携を深め、安全でよりよい教育環境を築くとともに、豊かな教育活動を創る。
- ③併設の図書館分館や児童館、保育クラブとの緊密な連携を進め、地域の学習や生活の拠点として、学校機能の充実を図る。

8 生徒指導の重点項目（さつきのこころ）

- さわやかなあいさつ（笑顔であいさつができる子）
- つよい心とからだ（心身ともに健康で、体力がある子）
- きれいなこうしゃ（学校をきれいに掃除ができる子 黙働）
- のぼそう学ぶ力（自ら学び、考え、発表できる子）
- 心をこめたことば（思いやる言葉がかけられる子）

9 不登校解消を目指して

- 不登校対策スローガン「Let' s GO HIGASHINO!!」の徹底
 - ・行こう! ・楽しもう! ・学ぼう! ・遊ぼう! ・○○しよう!
- レッツゴー委員会（不登校支援委員会）を中心に、組織で取り組む

10 いじめ撲滅を目指して

- 「いじめ防止基本方針」の徹底
- 心の教育の推進
- 言語環境の充実
- 「特別の教科 道徳」の充実
- 生徒指導体制の強化
- 関係機関との連携強化

11 継承

(1) 凡事徹底（当たり前ことが、当たり前できるように）

①場を清める（教育環境を整える）

- ・授業環境を整えるために教室・学校環境の美化に対する意識を高める。【黙働・黙動】
- ・学校応援団・PTA・保護者・地域と協力して校内の美化活動を協働して行う。
- ・東野小の「学習規律」を全教職員が共通理解のもと、児童へ指導の徹底を図る。
- ・子供にわかる、できた、成長した喜びを実感させられる授業づくり。

②時を守る

- ・教師の「時間を守る」意識を高める。「チャイムで始まりチャイムで終わる」授業計画を立てる。教師は授業に遅れない。

③礼を正す

- ・いつでも・どこでも・だれにでも、元気な挨拶ができる児童を育てる。
(教師、児童両面からのアクションで)

(2) リーダー育成

- ・委員会活動の活性化を図り、児童の活動を増やし、主体性を伸ばし、リーダーを育てる。
(全校児童に見える活動の実施)

(3) 生徒指導体制の見直し = 積極的な生徒指導

- ・学校全体として組織で対応。共通理解を深め、共通行動で指導する。
- ・生徒指導委員会の活性化を図り、情報の共有化と課題解決策を全員で考え、取り組む。
- ・毎月の生活目標達成の更なる徹底を図る。(振り返りを生かす)
- ・課題のある児童を学級だけでなく、学年、学校でサポートし、見届ける。
- ・いじめ、不登校をゼロにする。

(4) 家庭・地域との連携の強化

- ・PTA活動や地域の行事への積極的参加。
- ・地域、東野高齢者いきいき広場との交流を推進する。
- ・学校行事、学年行事、授業での地域、保護者の協力の場を設ける。地域の教育力の活用。
- ・ホームページを活用した情報発信。

(5) 幼・保・中との連携の推進

- ・学習面も含め、小・中連携の発展を考える。(出前授業等の実施)
- ・幼稚園、保育所・園との交流を深め、就学にかかる園児の不安軽減を図る。
また、園児の情報収集に努め、就学後の支援体制に生かす。

12 コミュニティー・スクールの具体的な活動（地域とともに生きる子の育成）

- (1) コミュニティー・スクール充実のための熟議を開催
 - ・職員・運営協議会委員・保護者・地域と定期的に話し合う機会をもつ。
 - ・テーマを決めて、グループで話し合い、共通理解を図る。
 - ・学校は何かが必要で困っているか、家庭・地域は何かをしたいか、何ができるかなど具体的な話し合いを行い、それぞれの立場や役割の理解を深める。
 - ・誰が何を手伝えるか、協力できるかなど、データベースをつくる。

※熟議：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと
- (2) 学習支援（学校・保護者・地域ボランティア・企業等連携）
 - ・「ミシン学習」（5，6年）
 - ・「ローマ字入力」（3年）
 - ・「かけ算九九」（2年）
 - ・「コンパス」（2年）
 - ・「漢字検定」
 - ・「校区探検補助」
 - ・「むかし遊び」
 - ・「出前授業」（りんご、ユニクロ他）
 - ・「福祉体験」
 - ・「農業体験」（清水農園、小泉ぶどう園他） 等
- (3) 図書教育の充実のために（学校・保護者・地域ボランティア）
 - ・「図書室環境の整備」
 - ・「本の整理」
 - ・「読み聞かせ」 等
- (4) 子供の安全・安心のために（地域・保護者）
 - ・登下校の見守り
 - ・20分休み、昼休み校内の見守り 等
- (5) 学校環境の整備（学校・保護者・地域ボランティア）
 - ・「花壇の整備」（花年間100%）
 - ・「学校設備の整備（ベンチ、門扉他）」
 - ・「掲示物の作成、掲示板の整備」 等
- (6) 父親の会イベント（父親の会）
 - ・運動会：パトロール、テント片付け等
 - ・防災キャンプ
 - ・ミニ四駆 等
- (7) その他